

# 有宵会だより

第50号  
発行所  
特定非営利活動法人  
岳易館・有宵会  
編集 広報部  
松戸市新松戸1-64

## 九星と易断による

### 四月・五月の運勢

気学では辰の四月

四月四日(清明)節入り

生 気		
2	7	9
1	3	5
6	8	4
天 道		

破

気学では巳の五月  
五月五日(立夏)節入り

生 気		
1	6	8
9	2	4
5	7	3
天 道		

破

生 気



### 一 白水星の人の運勢

四月筮一 地火明夷の六三  
五月筮一 天山遯の九五

過ぎたるは及ばざる公  
私にルールを守る。新企  
画は尚早、本業に徹する。  
予期せぬ出費と熱冷えの  
愛情を表わす。内緒事の  
露見用心。独断さけ助言  
参考に健康管理は咳と食  
道、花粉症、睡眠、足腰。

五月は交際面を大事に  
気遣う。場の空気を読み  
会話を上手に家事は手扱  
きせず。異性運は東西方  
位小旅行吉。人の集まる  
処に好機。風邪、胃腸の  
疲れ、脚と足首痛み用心。

### 二 黒土星の人の運勢

四月筮一 天山遯の上九  
五月筮一 風火家人の六四

仕事は共同吉で実績は  
ユックリ伸びる。金銭絡  
みの交際は益なく厄介事  
をさげ安心。見学や研究  
知識の向上心を期待。情  
報を巧みに生かし信用は  
宝なり。風邪と気管、頭

痛、微熱、消化力低下。

五月運は落着きと小変

化が混ざる。予定が延び  
るので早めに対処。家族  
知人に平和主義で安泰。  
無駄遣いと修理費、紛失  
注意。食欲あり過胃酸、  
湿疹、過労、足腰の疲労

### 三 碧木星の人の運勢

四月筮一 地天泰の初九  
五月筮一 地雷復の上六

多忙を忘れて一休み、  
無理をしないで現状維持  
家族への奉仕と愛情の微  
多し。業務は大丈夫と油  
断しやすく儲け話に落ち  
穴。軽率な発言用心と依  
頼事は断る。休養一番で  
風邪熱、胃腸、血圧注目。

五月は無理な前進をせ  
ず控える。多弁をさけ手  
腕を生かす。仕事や金銭  
面は徐々に復調、わが家  
の家具や電化品の不具合  
直す。過飲食、打撲、落  
下物、貧血や高血の診察。

### 四 緑木星の人の運勢

四月筮一 坎為水の初六  
五月筮一 地山謙の上六

運気は積極策を示すが

状況は停滞気味。対人面  
の誤解と摩擦に注意、独  
断にならず調和を忘れず  
また情報ミス、交通接触  
金銭管理など気持を締め  
る。持病の再発、血管障  
害、頭痛、精神疲労など。

### 五 黄土星の人の運勢

四月筮一 水火既済の初九  
五月筮一 山風蠱の上九

平穏さ吉運で人の和が  
大切、自己過信からの口  
難あり。初期は具合良く  
ても最後の仕上げ弱い。  
社交と趣味道楽に出費多  
しと家での忘れ物ありそ  
う。気遣いと声帯。発汗と  
体熱、頭痛、軽快運動を。

五月の前半は予定通り  
にいかず骨折りに再チエツ  
クが肝心。整理と収納、  
技能の習熟、対話充分に  
伝言や収支計算のメモ記  
録。筋と関節、慢性的胃  
腸、皮膚出物、鼻炎など。

### 六 白金星の人の運勢

四月筮一 沢山咸の六一

五月筮一 山火贲の上六

目的達成のために努力  
を続ける。有利な話に棘  
含む注意。知人や親戚の  
探め事に深入り禁物。仕  
事は重いこだわり疲れが  
続く。財産の管理と運用  
に要配慮。体調は気疲れ  
節々の凝り、血圧の不順。

### 七 赤金星の人の運勢

四月筮一 水山蹇の六四  
五月筮一 火山旅の六五

物事は渋滞気味、焦ら  
ず辛抱強く待つ。親しき  
仲にも礼儀と節度を守る。  
仕事と家庭内は前半は足  
踏み後半に好転見込み。  
手帳とメールは入念に読  
解して。歯周、花粉症と  
気管、動悸、頸部肩凝り。

五月は自重運、窮すれ  
ば通ずるので粘り強く待  
つ。小事ならば良く家事  
子育て目下へ労りが大切。  
我を張らず聞く耳を持つ  
心掛け。足腰、筋肉、風  
邪、下痢、泌尿系を注目。

### 八 白土星の人の運勢

四月筮一 水雷屯の上六

五月筮一 坎為水の九一  
先を急がず忙中に閑あ  
り、些細なことにさんさ  
くせず家族安泰、孫子の  
成長を楽しみ慈愛をかけ  
る。予定は未定で地道な  
努力で待つ、玄関を飾る  
と吉。体調は平穩、陽気  
の影響で風邪、足元用心。

### 九 紫火星の人の運勢

四月筮一 天沢履の六三  
五月筮一 天水訟の九一

諸事に手堅く処理改革  
変化は益なし。職任共に  
見栄や体裁にこだわらず  
質素に。古い知人との再  
会温める。愛情面は率直  
に仕事は相手を褒め効果  
あり。胃腸、胆のう、骨  
盤、排泄、腰痛など用心。

五月は世間の評判も上  
昇、公私に気迷いせず予  
定の着手。隠れた才能を  
発見。新企画の増進など  
充実。私事の愛情安心。  
寝不足、神経、視力、皮  
膚炎、膝下、胃炎に対処。

福田 有宵

一月有宵会報告

山本悠里帆

一月二十八日(土)

足立区子ども支援センターにて、NPO法人岳易館・有宵会例会が開催されました。

福田先生はじめ総勢五十七名の参加でした。

福田先生・牧野先生・伊藤先生から新年のご挨拶を頂いたあと、福田先生にから辰年にまつわる龍の楽しいお話しを頂きました。

今回は福田先生による講演でした。



第一部

平成二十四年の時運

年盤に六白金星が中宮する。

\*中央の星と仲が良い星は浮かび、仲が悪い星は沈む。

\*六白は国・国家を表し、国が主導する年。国の方

針がさまざまに出る。  
\*国民は二黒・坎宮にいる。我慢をする。

二黒が離宮に回座した時一応、国は国民の要求に耳を傾ける。

\*国際状況は、八白の年から変化をし昨年七赤で表に出た。

しかし七赤の時は、やる事はやったが完璧にできない。後始末が必要になる。

どうしてか?

兌の為一爻欠ける。頭が欠けている・平和、柔らかさ・楽しさを求める。

内部に刃物を隠す。欲張らない。それでいいよと言っている。しかし心の

中のバランスがとれなくなった時、人間は暴れ出す。

\*今年には六白なので、国の方が自己中心になりやすい。国民を締め上げてくる。消費税などもその一例。

いろいろな規制・縛りは九紫。良宮に回座しているので状況に応じて変えていく。一貫してないように見えるが、国は一貫していると言う。六白の人は今年いろいろ言われる。頭を下げるようにしていくこと。

\* 中国と日本の関係を見る。

中国は西・南西の方角

三碧・八白が回っている。

西北は北京。七赤暗剣・歳破が回座し、北京事情

で、金銭の問題、貿易の問題が出てくる。お互いの国を非難する。歴史の問題が出る。しかしながら、七赤暗剣つきで、口

だけに止めようと、責任問題にまではしない。海洋は、一白と七赤。暗剣・歳破でうるさい問題が出てくる。

主となるのは、八白。八白は地下資源。これはキープしておこうという動きになる。

おもしろいのは、三碧です。新しいものとの組み合わせ、新人を連れて来て新しい交流を図るということです。

\*六白は車、国家事業のもの・鉄鋼関係などの事業も指す。こういう問題が出てくる。

政府はかなりてこいれをするだろう。 \*二黒が坎宮。大衆は労働多くして益少し。

このように九星を業種にあてて見ていくと良い。また、八卦をも用いていくと、判断に奥深さがある。

さて、今年の各九星の運勢の傾向は?

一白は離宮同会・二黒被同会。また定位対沖。

一白は水産業・栽培業(養殖)で離宮にあり、注目されているところ。ここで易をあてはめると、水火既済。比較的安定をみるという判断でよい。

しかし火水未済となった時は、漁のシーズンの遅れ、魚類の変化、潮目の変化などが起こる。

あと化粧品などは、一白と九紫でみる。九星は二つくらい横断して見る。

二黒は坎宮同会・三碧被同会。

易の八卦で見ると、地水師。大地の放射能汚染の問題。これを反対にして、水地比とすると、表に出すということになり、これが除染ということ。

三碧は坤宮同会。雷地予の状態を表す。交通・電子・電信関係の業種です。四爻の時が一番集まるところ。これがいつか。

大体夏から秋にかけてがいいわけですが。雷地予は、計画性がある。いままで研究してきたものが、世に出るのです。それがチャ

ンスを掴むのが夏から秋にかけて。これでもし不具合が出るとすれば、反対にしてみる。地雷復。改善する、と捉える。新品より旧作がよいとか。

このように易と気学を使っていくとよい。

四緑は震宮にいて、風雷益。業種は、貿易・外交関係。益でそういうものを伸ばして行こうというものです。しかし、五

黄が被同会。少しづつく、すんなりといかない部分がある。

五黄は巽宮同会・六白被同会。

巽宮で、同志と共にある。まわりが実績を見てくれる。六白被同会で、上位の人から評価される。しかし、六白のやり方を人から要求される。王道・正攻法でいくこと。

五黄の判断は難しい。二黒と八白の象意がある。巽宮は貿易や交際・海洋・交通・飛行機など。こういうものが五黄の存在で少し頭打ちになる。内部の改善・改革がある、リストラがあるとき。山

風蠱で、横ばい、中々日の目を見ないのです。六白は今年には中宮にきます。中宮する時は、被

同会は必ず暗剣付きです。大義名分を言う、また自分の思う通りにはなかなか行かないことも。定位乾宮に七赤被同会で暗剣付き。舌禍問題・金銭問題にまきこまれないように注意。状況を変えたい、また変わりたいというところ。盛運の勢いがまだあります。月命も見ましよう。

七赤は、乾宮同会で、暗剣殺と歳破が付いています。八白被同会。

暗剣が付くと、何かと忙しい。勢いもある。しかし事をまともに受け止めてしまいう傾向あり。

離宮・乾宮の時は、頭を下げるように心がける。肺・打撲に注意。

八白は兌宮同会・九紫被同会。兌宮は、口・歯 食べる お金、です。

被同会の九紫で、投資の話が出る。ここで欲を出してはいけません。また、兌宮で、体を少し休めるように。風邪をひいて、甘く見て長引く、命取りにはならない。

九紫は良宮同会・一白被同会。一白は相剋。

易の表現では火山旅観光・海外旅行パツクな

どは、九紫でどんどん変化する。海外ではどうかと比較する。

書類をきちんとする。一年先を見るように。老後やこれから先をどうしたら良いか。

- ・＊ 建築、後継者問題。
- ・＊ 血行不順注意。
- ・＊ 足腰、関節注意。
- ・＊ 良で体質が変わる。



第二部

例題・個人の運勢

本命・四緑木星  
月命・六白金星  
二月 天地否六一  
本命と月命が対沖。どちらが主になるか。予定は半ば過ぎに。ゆっくりやる。急ぐと失敗する。交渉ごとはうまく行かない。母親との関係は？ 生意気なことは言わないように。(否)  
三月 雷水解初六  
もう少しすると、悩みがゆるむ。  
本命・四緑木星

月命・一黒土星  
二月 天雷无妄九四  
人為的に何かをやっても、うまくいかない時。

しかし、本人は動いて行きたい。動いたつもりが、うまくいかない、うっかりする。

とりあえず、下旬まで待つて、動く。(五爻が良い) 信号・ルールを守る。

三月 雷水解六五  
問題を抱えている時にこの卦が出る。今あるものの状況を良くしていく。新規のものや、あれやこれやはダメ。

本命・一白水星  
月命・六白金星  
今年月命が中宮し、意志を貫きたい。  
二月 雷風恒九四  
今あるものを生かして行く。家庭が大切。月初めの対応は丁寧。動きは、中旬以降になる。(四爻) 後半になると、外へ目を向けたくなる。また外へ出る機会あり。それに乗ること。用事は前半に済みます。  
三月 火雷噬嗑六五  
初めは我慢、歯をくいしばる。言いたいことを言えない。誤解あり、素直に聞けない。

本日も奥深い講義を頂き、充実した時を過ごすことが出来ました。今年も福田先生のもと、楽しく学んで行きたいと思えます。

山本 悠里帆



おチヨさん

田中 寛子

度々、有宵会だより”の 貴重なスペースを頂く恩恵に与かり 今回もおチヨさんの天真爛漫な ひとこまを 記せる幸せに 胸をときめかせて ペンを執り始めているところです。感謝しつつ・・・

”追っかけ”してえー。(したい)  
「氷川きよしの、追っかけ、やりてえんだとも・・・(やりたいのだけれど・・・)」  
と、おチヨさんが 我が家に飛び込んだの開口一番の相談を受けたのは、彼女が95〜6才の折だったように思う。

たように思う。



「カアちゃん(長男の妻)が、そんな事、させられんちゃー、って 許してくれんがや・・・」  
と 嘆く事、しきりだった。

「ゲエーッ！ おチヨさん 本気イ？」  
余りの唐突な 相談に 二の句が つげなくなつた。

「あつたり前やア・・・。オレ、嘘の事、口になんかするもんかえ・・・。」  
「で？ どこ迄、追っかけ、に行きたいの？」  
「そりやー、どこ迄でも行きてエよオー。北海道でも・・・ 沖縄でも・・・ きよしの行くどこ(所)どこへでも 付いて行きてエー」  
「ヘエーッ と 私は即答に窮した。  
「おメ(め)さんからも カアちゃんに 頼んでくれんかのオ？」  
「ホウ、そう言う相談がアー。駄々、こねるんでねえよ・・・。」

私のピシャリの一撃をかき消して おチヨさんは

「氷川きよしは ええ子だけえー。 オレ、あの子、好きだあーさ・・・ サツパリとしてて 素直だるがや・・・。」  
あんな ええ子は 歌い手の中には居ねえ・・・。」  
と 立て板に水に成つた。

カアちゃんは「お婆ちゃんに追っかけされたら新聞沙汰だわいな」と 困惑の色を隠さない。わたしも同感だ。

「おメ(め)さんも オレを止める気がア？」とおチヨさんは、本気で怒つてうなだれている。

＊ ＊ ＊  
それから 数日して・・・ おチヨさんは 我が家に ひよっこりやって来た。  
「ええ(良い)話があるんだじゃあ・・・。」  
顔が 全部 笑っている。  
「どんな 話だねー？」  
「ヒ、ヒ、ヒイ。  
ゆっくり話すと・・・ あわてんなや・・・。」  
お茶を入れようとする私に「水で、ええ」と、随分な興奮だ・・・。  
「バンザイーッだぞーッ。万才！」

????  
「何の バンザイ? ?」  
「イッヒッヒ。」

と、気味の悪いを、続けながら おチヨさんは両手を広げたまま  
「会いに行くんだよオー。氷川きよしにイ！」  
「エ、エッ！ どこ迄エ! ?」

チヨさんは 今度は 全身で豪快に笑い出した。ソレが止まらない。  
聞けば・・・ 孫息子が チケットを購入してくれたのだそつだ。  
「カアちゃんと一緒に会いに行つて来いってなあ・・・。」  
「一枚買つてくれたんだよオー」  
「ヘエーッ！ え(良)かつたねエ！」

「なあー? ええ(良い)話だろう? 思いがけしなかつたあー。カアちゃんも 一緒だぞエー」  
「ワクワクだなあ」  
「私も弾んで返した。  
「ウーン。こりやー、眠れんくなるつちやー。会うまではオ。イッヒ、ヒ、イッヒ、ヒイ・・・。」  
「眠れんかて 当たり前だよ。本者に会えるんだから・・・。」  
「ウッフッフッフ・・・。オレま、そんなワケで オレ

のヨソ様に会うてくらあー」。

「そんじゃあ、も一度、万才だあー。さあーバンザイだあー」

と、私の音頭に、おチヨさんは椅子から立ち上がった。伸びやかに万才を繰り返した。何度も繰り返した。

そして、彼女は、帰りの玄関で、も一度叫んだのである。それも、力の限りに・・・。

「待ってけれエーツ。氷川きよしイーツ！」

おチヨさんは、この四月一日で、百一才を迎えます。

右足骨折後の不自由さに、無念の悔しさを滲ませながらも、ジョークを続けるパンチは以前より冴えて、毎回、私は、一本、取られてシオシオのてい・・・。

更に、驚いた事には、去年の猛烈な酷暑の夏の一日を、早朝に福島をめぐらし、新潟へ立ち寄り、深夜に戻るというトンボ帰りを、決行しているのです。

同伴して、おチヨさんを支えた60代と70代の嫁さん達の、帰路の車で、

グッタリの居眠りを、横目に、おチヨさんは、助手席で、夜空を、仰いで、運転を続ける孫息子の安全を、支え続けて、しっかりと眼を見開いていたとの事でした。

二月二十八日 田中寛子

本土寺へ初参り



有宵会新春恒例の初参りに松戸市内の本土寺へ行つてまいりました。徳川時代の小金宿の古刹です。花の寺、あじさい寺と呼ばれ、「本土寺の四季」という一冊の写真集があるほどです。東京ドームの二倍の境内には手入れの行き届いた梅、菖蒲園、紫陽花、もみじ(他にもいっぱい)があり、これらは私の想像をはるかに超えた規模で広がっていました。

受けました。ご本尊日像聖人の御前では福田先生のもと、皆でお題目の「南無妙法蓮華経」を唱和しました。私は、心願成就の願を掛けていたこともあり、真剣に唱えました。寒さの中、76名のかなりの人数で気合の入ったものになったと感じました。その後の境内見学では、幾重にもつながらつた長い回廊から大名のようにお庭を眺めました。見どころが盛りだくさんでお茶室は拝見したく、もう少し時間がほしかったです。回廊を見上げる

ご住職 貫主 沖鳳亭ご上人が「太陽の子」という機関紙に寄せられたもの、「縁えにし、私の雑記帳」を拝読させていただきました。そこには、日像聖人のこと、若くして亡くされたご住職のご次男大樹さんのことなどが書かれており、大変胸を打たれました。

この平賀の地は日像聖人の生誕の地です。私は、日像聖人の足跡を初めて知りました。日蓮大聖人が、亡くなる前日に弟子の六老僧を超えて托鉢前の経一磨(のちの日像聖人)に悲願の京都での布教を命ぜられたこと。そして日像聖人が、時の天子後醍醐天皇より勅簡を得て今日に至っていること。(勅簡とは全国に広めてよいという正式な宗派として認められたということである。)このよう

なかつたのです。今回、本土寺に御仏縁をいただいたことは偶然ではなかつたと思えました。また、今回は残念ながらご住職にはお会いできませんでしたが、その手記の中でご住職が、若くして亡くされたご次男大樹さんのお墓のある本土寺へ浅草の本覚寺から毎日通われたくだりや、二十歳のお祝いにはお墓の前で奥様とワイン、ロマネコンティでお祝いをされたこと。大樹さんがフィアンセを連れて会いに来られた夢を見たことなど。会いたい人に会えない切なさやご住職の人間味あふれる愛が伝わり、胸がいつぱいになりました。そして、このお寺のお守りがとてもほしくなりました。

若林シマ記



哀悼 瑛梨先生を偲んで

伊藤 璃香



昼食時には、ご住職の奥様自ら地酒のお燗をしていただき、大広間にて皆で堪能いたしました。改めて御礼申し上げます。帰りには、それぞれがお札をいただき、おみくじを楽しみました。この本土寺は五重の塔をはじめ、乳出の霊水。紹介しきれない数々の伝統があります。次回は、家族を

「リーかチャン！」電話の第一声です。今も耳の奥に懐かしいお声が残ります。

平成二十四年二月二十一日（火）午前六時二十分 伊藤瑛梨先生永眠

享年九十六才。

先生は私の心の師。大先輩として、また母・女性としての教えをも戴きました。

夫を愛し子を慈しみ、占いを通して社会に貢献、常に凛としておいででした。またお子様が幼い頃に喘息を患われたそうですが、それを治すため山梨県の七面山奥の院に祈願され、五十回の余も登られたとのこと。あの大変なお山を！（私は一日かけて登りましたが、）

大きな愛に包まれて、幸いなことに難病も完治九十六年のご生涯の中には、様々な喜び、悲しみや苦しみもおありのことでしょうが、辛いことは一切お顔に出さない。いつでも前向きの方でした。私には、優しくある時は厳しく、本音で接して頂きました。うつかり「疲れました」などと口にすると、すかさず「十年早

い！」時には「二十年早い！」とお叱りが返ってきます。でもきつい言葉の奥には、慈愛に満ち、「大切な人」なのだからね！という想いがひしひしと感じられて、電話口で涙ぐむことも数多くありました。私にとつては大切な大切な母のような存在の方でした。

数年前にお宅に伺ったことがありますが、ご高齢の身で世田谷の遠方から湯島・綾瀬に通っていらしたのかと驚きました。先生は特に「易」に親しまれ、福田先生を尊敬されて、日本一の先生に教えて頂ける喜びをいつも口にされておいででした。私には「何故湯島聖堂教室に行かないのか」とのお叱りも頂きました。そして「福田先生の傍で学べる幸せを有り難く思いなさい。勉強しなさい。勉強しなさい。」と、まるで幼いわが子を諭すように言われ、「占いを志すなら街占で恥をかいたり冷や汗を流しながら実占しないと駄目！温室の中にいてはいけません。」と何度も仰いました。

有宵会十周年祝賀会の節には、素晴らしい和服姿

でご出席頂きましたが、久しぶりにお顔を拝見し、嬉しさに胸が詰まったことを思い出します。

胆石を患われ、食事制限（肉・油もの）も克服して見事に乗り越えられたが、晩年は血圧が高く、PTSD（恐怖感）にも悩まされ、あの気丈な先生にして「寂しい」と咳かかれたとか……。でも亡くなる数日前までご自分の足で歩かれ、前日も自ら食事を摂られたそうです。当日は東の空に太陽を眺め、ベッドで眠るようにニコニコ顔のまま他界されたといいました。

思い出が沢山あつて様々な場面が走馬灯のように頭の中を駆け巡ります。もうお会いすることは出来ないですね。覚悟はしていましたが、堪らなく悲しく寂しいです。大好きだった瑛梨先生。心からご冥福をお祈り申し上げます。 合掌



瑛梨先生との思い出

吉田 侑加

伊藤瑛梨先生と最初にお会いしたのは、随分昔のことでした。私が故大熊先生の茅場会の毎月の研究会に出席させていただいた頃、府中の競技場、新宿の花園神社での仕事を兼ねたイベントに参加した折、大熊先生から瑛梨先生に、福田先生の生徒の吉田の面倒を見て上げてほしいと紹介していただいたのが初めて瑛梨先生との出会いだったと記憶しています。

その後、大熊先生の教室が終わりだったので、瑛梨先生は橋本佳代子先生と一緒、福田先生のお教室に入り、そこで更にご縁を深くつなぐことができた！へん嬉しく思いました。しばらくして瑛梨先生は永年易学を窮めていました。周易のお勉強がしたいと、当時湯島聖堂で行われていた、紀元書房主催で講師の福田先生の易学師範科に二名共に入学を許可、一緒に通うことになりました。その頃の思い出として、聖堂の境内に堂々

と立つ、孔子様の銅像に必ず手を合わせて、易学のお勉強の上達と精進の道をお願い致していました。

聖堂の東北方位側にある神田明神様のお祭りは大変賑やかで楽しいものでした。境内にある大きな大黒様にお詣りしたときは、食べることに不自由がないように祈願し、お願いすることばかりでした。帰路門前のおそば屋さんで、美味しい天ぷらそばをニコニコしながら二人でいただき、健康で食べれる幸せを感謝致しました。また甲子の日は大黒様の、お祀りの日なので、お赤飯をお供えしてご守護をいただくように教えて下さったこと、

また、聖堂のお教室の帰りには、福田先生をはじめ皆さんとホテル聚楽の喫茶室でコーヒーのお代わりをいただきました。紀元書房の奥様が長老の瑛梨先生、若手の皆さんにも色々とお配りをして下さりありがたく思っています。その頃は瑛梨先生は八十代だったでしょうが、まだまだお元気で休みせず頑張っていました。師範科のお勉強

も一区切りつくと余り遠出をなさらなくなりしました。

その後はお電話で近況報告をしたり、いただいたり、時々お会いしたいなと淋しさをこらえておりました。今年に入ってから瑛梨先生が家の中で、転んで腕の骨を痛めて入院し、手術を受け退院したばかりのときお電話をいただき、吃驚しました。経過は如何かと案じておりました矢先、2月16日のことでした。福田先生より、今朝瑛梨先生が亡くなられた由、お電話をいただきました。ただただ驚くばかりで涙が止まりませんでした。退院された時のお電話が瑛梨先生のお声を聞いた、最後であつたのかと残念でたまりません。

瑛梨先生との永い間の思い出ばかりが浮かび思い出しては涙があふれるばかり、きつと瑛梨先生に叱られますね。「吉田、しっかりしなさい、頑張つて長生きして、お勉強に精進しなさい、と言はれ励まされているように響いています。 瑛梨先生、安らかにお眠り下さい。

ありがとうございました。 **合掌**

### 瑛梨先生の思い出

**松本 彩里**

先日、伊藤瑛梨先生の訃報をうかがったとき、びつくりして息が詰まり胸が一杯になってしまいました。最近までお元気でしたのに、急にどうなさったのでしょうか、涙が滲んできました。

瑛梨先生に初めてお会いしたのは、綾瀬ブルミ工教室でした。十数年前になります。

最初の印象はピリっとしたお顔で、年輪を深く刻まれている様子に、たいへん威厳があふれていたのを昨日のように覚えていています。

二回目か三回目のお教室のとき、「あんだ、私の隣にお座り」と言って下さり、そこから毎回隣に座り、いろいろな勉強を厳しく教えていただきました。

あるとき先生は、昔に買ったものと水晶のネックレスだけど、私には重いかからあなたにあげるよ、と江戸弁で言って下さったのです。

今は記念の品として大事

に置いてあります。それから鑑定に使っていた敷物をいただき、愛用しています。先生は易占がお好きでしたので、敷物にも易の心が入っているものと思います。思い出の深い敷物です。

先生が教室にお見えにならなくなってから、電話してお声を聞いていたりしていました。

いつだったか、ある日の夜、お電話があり「窓を開けて空を見なさい、滅多に観ることができないお月様だから、願い事を叶えて下さるよ」と気持を込めて言われたことを、観月のときには想い出します。

静かな夜、まんまるのお月様に手を合わせ頭がさがります。胸が熱くなる、その時の先生のお声が、今でも耳に残っています。ご縁をいただいた先生に本当に感謝しております。

瑛梨先生、謹んでご冥福をお祈り申し上げます

**合掌**



### NPO法人通信

NPO法人として左記イベントに参加しました。

三月十日(土) 松戸・矢切サポートセンターにて開催の第十回市民活動見本市に、無料鑑定会出演。(敬称略・五十音順)

出演者 佐藤宗岐(副理事長)・伊藤璃香・稲葉行哉・金子智佳子・久保田恵都予・高田玲照・千葉一理・牧野一江・牧野有峰

鑑定数 百二十五名 (終日賑いを見せ好評でした。周囲の方からも「ここは人気がありますね」との嬉しいお声がありました。)

尚 当日の入場者数は一〇〇〇名でしたのでその人気度もお解り頂けるのではないかと思います。 設営等 九日 佐藤宗岐・前田龍徳の両氏・備品運搬・配置等に参加。

十日 佐藤・久保田両氏は雪のちらつく早朝より各種実行準備・設営。

なお佐藤副理事長は両日ともイベント実行スタッフとして、また久保田理事は当日の会場案内・整理担当としても尽力。 関係者のご協力、誠に

有難うございました。



賛助会費として左記の方々からご寄付を頂戴しました。(敬称略・順不同)

八川林加・岩崎紀子・濱野延珠・佐藤宗岐・河野有泉・伊藤璃香

(株)アイテック様からの大阪イベントに関わるお振込みをいただきそのままNPO法人岳易館・有宵会として、大阪市市民活動推進グループへ寄付しました。 **伊藤 璃香**



### 事務局だより

#### 次回の例会

日時 五月十九日(第三土曜日)午後一時十五分より

場所 足立区こども家庭支援センター

講演 西脇玄人先生

「東日本大震災を体験して」

震災から一年がたちましたが、復興への道はまだ遠いようです。皆さまはどのようにお思いでしょうか。いろいろのご意見もおありでしょうか、実際に被災体験をされた現場の厳しい生の声を伺います。今後の日本の行く末を考えるきっかけとなることを期待しましょう。

#### 江戸の五色不動尊巡り

期日 四月二十三日(月) 集合 上野公園(バスターミナル)八時四十五分(出発は九時)

費用 一万円(含 六ヶ寺奉納金・食事代・交通費・保険料)

好評です。申込は早く参加者には後日プリントを配布します。

#### お花見予定

日時 四月七日(土)

午後「お花見」を予定しています。 場所 未定(どこになるでしょう。お馴染の上野? 浅草?)

毎年桜開花の日をひやひやしなが待ちますが、これも一興。今年はどうでしょうか。

大河ドラマにも出る西行法師には、降りかかる花びらに儂い桜を愛でる心の余裕を想う歌がありますが、かくありたいとも思うこの頃です。

#### 松戸・本土寺様への初詣

七十三名の方が参加され、大盛会でした

#### 会員訃報 伊藤瑛梨様

三月二十一日(火)午前六時二十分永眠 享年九十六才

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

平成二十四年一月の例会の出席者は五十六名でした。

次回の例会は「第三土曜日」ですのでご注意ください。

**事務局長 伊藤 璃香**